筑波大学新聞

第282号
編集責任
筑波大学新聞
編集委員会
委員長　荻野祥三
TEL: 029(853)2040・6699
E-mail shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月　刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1－1－1

T1リパーゼ
世界で初めて立体構造を解明
薬開発への活用に期待膨らむ

本学の舘野賢准教授（物理専攻）らの研究グループは、先月5日、大阪大学の松村浩由准教授と共同で、脂肪分解酵素「T1リパーゼ」の正確な立体構造を世界で初めて解明したと発表した。これまでは、酵素の最も重要な部分（反応部位）の構造がはっきりしていなかったために、酵素作用の仕組みが不明であった。その証明は、本学の超並列コンピュータPACS－CSなどを駆使したコンピュータシミュレーションで行われたが、研究当初は、正確な計算の出来る手法がなかった。そのため舘野准教授らが、高度な理論を組み合わせた正確な計算方法を新たに開発した。T1リパーゼの正確な構造解明とこの新しい計算法は、いずれも世界で初めて。

酵素などのタンパク質は、アミノ酸から構成される。アミノ酸は「水に溶けやすい」種類と「水に溶けにくい」種類があり、それらは水と油のように混じらず、安定した結合をつくれない。しかし、ナトリウム（金属）イオンを介することにより、これまでのその常識を覆す構造が存在することが、今回のT1リパーゼの構造解明によって証明された。

ここで見出された通常安定した結合が難しい「水に溶けやすい」アミノ酸、環状構造（芳香環など）を持つ「水に溶けにくい」アミノ酸、そしてそれらを橋渡しするナトリウムイオンの結合は、酵素の新しい機能単位の発見でもあり、舘野准教授らが「ナトリウム・ブリッジ」と名付けた。

これまで、タンパク質内における環状構造（芳香環など）とナトリウム（金属）イオンとの結合については、長時間にわたるダイナミクス（運動性）を含めたコンピュータシミュレーションを正確に行えなかった。そのため今回は、まず高度な量子力学計算により正確なエネルギ値を得た後に、それを用いてより単純なエネルギの式を導くという2段階を経た。これにより、膨大な時間を要する高度な量子力学計算と同等の精度でありながら、短時間で正確なエネルギ値を求めることが、世界で初めて可能になった。そのため、計算精度を落とすことなく、数百万回の計算を繰り返し行うことが可能となり、ナトリウム・ブリッジを含む酵素のダイナミクスを解明することに成功した。

この計算法はさらに2個以上の環状物質同士の正確な計算に応用出来、今後それらを含むさまざまな構造が解明される見通しだ。

こうした環状構造を持つアミノ酸が作るタンパク質の重要な立体構造は、タミフルなどの医薬品とタンパク質との結合など広く見られる。したがって今回の研究成果は、より正確で効率的な医薬品の開発などにも応用が期待される。

舘野准教授は、「世界初の発見が2つも並び、非常にうれしい。今回の研究成果が医療分野での開発などにもさらに活用されてほしい」と期待を述べた。

事業仕分け
性急な判断に懸念訴える
交付金減額に反対

先月11日から27日にかけて行われた政府の行政刷新会議による「事業仕分け」。国立大学法人への運営費交付金に「見直し」判定が下るなど、国立大学法人や研究機関に対し厳しい判断が示されていることについて、大学や研究機関から研究力、教育力低下を懸念する声が上がっている。

本学の山田信博学長は、国立大学法人運営費交付金の見直し判定について、先月26日に声明を発表し「交付金は教育の質を保証し、研究活動を進めるのに不可欠」とした上で「高等教育は未来への投資。短期的な成果や費用対効果のみで適否を判断するのは適当でない」と述べ、交付金の減額に強く反対した。

また、見直しの判定が下った科学技術・学術研究や次世代人材育成に関わる事業について、本学が参加している国立大学法人10大学理学部長会議は、再考を求めているほか、産学連携を推進する本学を含む9つの国立大学法人から、事業仕分けの「廃止」の判定に再考を求める意見が示されている。

政府は、行政刷新会議の結果について関係閣僚間で調整を行うことを示唆しており、予算編成に大学界からの声が反映されるか注目される。

中国駐在経験者シンポジウム
OB・OGが講演
質疑で白熱した議論も

来年度開講予定の自由科目「日本と中国・GDP逆転の衝撃」に向けてのプレイベント「視野をアジアに」が、先月14日に1H101教室で開催された。筑波大生OB・OGで中国に駐在した経験のあるシンポジスト6人を招き、学生など約50人が訪れた。

講演に熱心に耳を傾ける参加者

OB・OGは日本生命の三浦友紀さん（98年・人文学類卒）、読売新聞元北京特派員の東一真さん（87年・経営・政策科学研究科中退）、日立製作所の小堤治さん（80年・社会学類卒）、住友信託銀行の高木宏治さん（82年・人文社会科学研究科中退）、日立建機の廣田則さん（78年・社会学類卒）、資生堂の高野幸洋さん（79年・人間学類卒）。テーマは中国の経済や法律、映像文化、人事労務管理、金融、消費者動向と多岐にわたった。

世話人である土井隆義教授（国際）と本澤巳代子社会学類長（法学）の開会のあいさつでシンポジウムは始まった。卒業生らの自己紹介の後、日々の仕事内容や、これまでの中国との関わりが紹介された。

「今や中国は単なる製造拠点ではない。人材育成に力を入れるのが、日本企業の使命だ」と力強く語った。

今後は、中国への現地権限委譲をし、合弁による連結経営で効率を図るという。また、「過去の弁護士の中には、大学を出ていない人もいた」という中国の法制度を熱く語ったのは小堤さんの「中国における法制度」。来場者は日中の法制度の違いに驚きを隠せず、会場はざわめいた。

中国のGDPが間もなく日本を抜こうとしている。しかし、台頭する中国は特異の法制度や、中国的市場経済などビジネス面では、苦心する面も多い。本講座はこうした、台頭する隣国を知る良い機会である。学生の間では、各界の第一線で活躍する卒業生から話を聞けるということもあり、キャリア支援につながるとの期待が強いようだ。

質疑応答では、政治問題に白熱した場面もあり、学生の意欲の高さがうかがわれた。

来場した女子学生（人文3年）は「中国に留学したことがあり、講座に興味を持った。来年の講座開講が待ち遠しい」と興奮気味に話していた。

つくば歳時記

今年のつくばはマラソンは開始直前に小雨が降り出した。丸山和也参議院議員がゲストとして訪れ、スタートした選手とハイタッチをして送り出した。（筑波大学西バス停付近で）撮影・篠崎真希＝国際総（人学類）

4月から1学期間の講義は全部で10コマ。日本人向け（金曜4限・日本語による講義）と留学生向け（金曜6限・日本語と中国語による講義）の2種類が開講予定。前者は社会学類と全学群が対象。後者は社会学類グローバル30英語・中国語コースを対象としているが、意欲があれば受講出来るという。

つくばマラソン
1万3203人が参加
女子の部門で2年連続優勝

第29回つくばマラソン（主催＝本学、つくば市など）が先月22日、本学陸上競技場内をメーン会場として開催された。日中でも気温が一桁台と肌寒い中、1万3203人ものランナーが参加した。

大会はフルマラソンの部と10キロの部の2部構成で行われた。女子フルマラソンの部では水谷理紗さん（医専6年）が2位のランナーに約4分の差をつけ2時間43分14秒で昨年に続き見事優勝を果たした。水谷さんは「つくばはマラソンを始めた地であり、知り合いも多く応援が助けになった」と感想を述べた。

また女子10キロの部ではゲストランナーとして招かれた加納日里選手（セカンドウィンドAC）が32分42秒で優勝した。

フルマラソン男子の部の前田智史さん（経政2年）は今回で4回目の出場。体育専門学群開設の自由科目「つくばマラソン」を受講しており、同授業の歴代記録を5分以上更新する2時間34分35秒でゴールした。前田さんは「体調は万全ではなかったが、目標にしてきた記録更新が出来たので大変うれしい」と喜びを口にした。

また今大会には丸山和也参議院議員など多数のゲストが招かれた。丸山議員はフルマラソンのスターターを務め、ランナー達を激励した。

筑波おろし

母親が携帯のストラップを送ってきた。お土産だという。先には小さなクリスマスリースが付いていた。もうサンタにプレゼントをもらう季節なのかと、自分がこれまでにもらったものを思う。取材相手に時間をもらい、話をもらい、編集部員に支えてもらう、もらいっぱなしの日々だった▼「孤独に耐えてチームを引っ張るのがキャプテンの役目や。男子ハンド部の取材中、当時の監督が主将についてそう語った。折りしも編集長になりたてで、その重圧に押しつぶされそうなときだった。監督の言葉に勇気をもらい、踏ん張ろうと覚悟を決めた。あれから1年。今月で引退だ▼この冬引退を迎えた元キャプテンたちは、ぽっかり空いた時間をどう過ごしているのだろうか。孤軍奮闘してつかんだはずの勝利も、メンバーがついて来てくれたからこそだったと思い返している人も多いだろう▼この1年で、社会には自分で「つかむ」ことよりも、誰かに「もらう」ことの方が圧倒的に多いと知った。教えてもらう、助けてもらう、勇気づけてもらう――▼最近「おかげさまで」の一言を聞かなくなった。一人で出来ることなどだれが知っているのに、それを忘れて上手くいけば自分の手柄、失敗すれば他人のせいだ。その一方で、自分勝手な自己責任」がはやる。はやりに任せて他人の支えに気づく心も失ってしまいそうで怖い。そうなる最後、その心はもう誰からももらうことは出来ないのに。

紙面から

国際ESDシンポ　海外から研究者ら来学　2
つくば発人生列車　菅原文太氏が講演　2
反射鏡　クリスマスプレゼント　3
柔道　講道館杯、緒方が初優勝　6
全日本大学バスケ　女子、5年ぶりの優勝　6
学生の危機を考える　詐欺や勧誘に要注意　7
特集　4
今年の本学を振り返る
変革・発展の2009

おことわり
今月号は8面構成で発行しました

国際ESDシンポジウム2009

食料問題で意見交換

海外から研究者ら来学 本学生も運営携わる

国際農学ESDシンポジウム2009（本学農林技術センター・日本ユネスコ国内委員会主催）が、先月9―12日に本学で開催された。本学の協定校のうち、インドネシアのボゴール農科大学など3校の農業関係者や研究者が招かれ、各国の農業事情について意見を交換した。

シンポジウムは、食料・環境・生物資源利用の分野で国際的に活躍出来る人材の育成を目指す「国際農学ESDプログラム」の一環として開催された。ESDとは「持続可能な開発のための教育」の頭文字を取ったものである。今年のシンポジウムのテーマは「農学ESDにおける食の安全と食糧の安全保障」。現在、食の安全性や食料自給率など、食糧の品質と量の問題が重要な世界的課題になっている。

10日には、農林技術センターの視察が行われた。参加者がセンター内の植物について熱心に質問したり、農業施設をカメラに収めたりする姿が見られた。参加者の一人で、タイから来日したスパンニ・カルさんは「日本の農業は良い環境で行われている。農業技術もタイよりもずっと進歩していて素晴らしい」と話した。

今回のシンポジウムには、本学の生命環境科学研究科の学生6人が授業の一環として参加し、会議運営の実務や参加者との交流、英語による議事進行などを体験した。

また、12日の午前には英語によるポスター発表会が行われ、本学と茨城大学から約40件の応募があった。同日の午後には、博士課程の学生や若手研究家を対象としたフォーラムも開催された。本学関係者をはじめ、協定校3校の関係者や茨城大学農学部の学生ら7人が参加し、英語による口頭発表を行った。

シンポジウムは来年も開催される予定だ。シンポジウムのオーガナイザーを務めた田島淳史教授（生物圏）は「来年以降は、出来るだけ多くの分野の学生にシンポジウムに参加してもらいたい。特に、食糧問題や環境問題に取り組んでいる学生グループは参加を検討してほしい」と話した。

花梨を興味深げに眺める研究者ら

菅原文太氏講演

温存治療を受けがんを克服 赤座教授らとのてい談も

本学附属病院総合がん診療センター特別講演が先月29日、つくば国際会議場（つくば市竹園）で行われた。ゲストに俳優の菅原文太氏を招き、「つくば発人生列車」と題し講演が行われた。菅原氏は一昨年ぼうこうがんであることが分かったが、担当医の赤座英之教授（疾医・本学附属副病院長）の放射線治療と抗がん剤を組み合わせた温存療法で克服した。「がんと申告されたとき、意外にもすんなりと受け止められた」という菅原氏。治療に訪れる度に、赤座教授から「元気出来る」と励まされたという。

しかし、治療が始まると自分を病人と自覚せざるを得なかった。治療箇所が黒ずみ、血の固まりが付く。歩くのもままならず足と腰に痛みが走る。周りに悟られないように注意しながら仕事と治療を続けていた。

菅原氏、赤座教授と、TBS報道局解説室の小嶋修一氏とのてい談「生き方の選択―がん医療からみえてくるもの―」では、「がんになっても悲観にならず、前向きに考えたことが良かった」と、菅原氏は語った。

菅原氏の治療を担当した赤座教授はぼうこうがん治療の先駆者であり、がん化した組織を切り取ることなく治療する方法を研究している。菅原氏が受けた温存治療も、ぼうこうを摘出することなく治療することが出来る。

講演の最後に、五十嵐徹也本学附属病院長が「がん治療において、何よりも大切なことは早期発見、早期治療である。定期的に検診を受けてほしい」と締めくくった。

つくばチャレンジ2009

ロボットが自律走行 5台が完走果たす

ロボットがつくば市内の約1キロの遊歩道を自律的に走行する「つくばチャレンジ2009」（財団法人ニューテクノロジー振興財団主催）が先月20、21日につくばエキスポセンター（つくば市吾妻）周辺で行われた。2007年から始まり、今年で3回目の開催。本学の知能ロボット研究室など65チームが参加した。

本大会は、人々が生活する実生活環境（REAL WORLD）の中で、人と共存し、そのパートナーとして活躍出来るロボットの実現を目指す技術チャレンジ。ロボットのため整備された環境でなくても自律的に走行することが求められる。自律的とは、遠隔操作ではなく、ロボット自身がセンサで周りの状況を認識しつつ自分で判断して走行することだ。「ロボットコンテスト」ではなく「社会レベルの技術開発」の一環であり、情報交流を通じての技術向上が目的だ。

完走した「TUFS2009」

三菱デザイナーアワード

本学生が特別賞受賞 「女性の生き方」描く

将来のプロデザイナーを目指す学生の卒業制作を表彰する「三菱化学ジュニアデザイナーアワード2009」の審査員特別賞（日々野克彦賞）に、本学の山本美希さん（芸術前期1年）が選ばれた。

作品名は「爆弾とリボン」。漫画でも絵本でもないような「絵で読む絵本」をコンセプトにした、ピクチャーブックだ。文字を使わず白黒で、ストーリーを234枚のイラストで表現した。イラストは場面ごとに10個のシーンに分かれている。

中学生の少女が主人公で、性別への葛藤や恐れをテーマに、最後は「女性」を選択する決意をする。このことに、自分たち女性の生き方を照らし合わせている。

山本さんは、「自分の思考を効果的に表現することに苦心した。その分初めて作ったこのストーリーには思い入れがあるので、受賞は大変うれしい」と語った。

来年1月には、「爆弾とリボン」を紀伊国屋書店新宿南店（東京・渋谷区）で展示販売する予定だ。

山本美希

人社棟トイレ改修

学生の声から実現 女子トイレ数見直す

人文社会学系棟A棟の5階と7階の男子トイレが今年7月、女子トイレに改修された。

改修前の人文社会学系棟のトイレ数は、女子用が男子用の4分の1という状況であったため、現在の学生数や教職員の男女比に合ったトイレ数の見直しが検討され、約半年かけ実現にこぎ着けた。

これは、FD（ファカルティ・ディベロップメント）の一環として行われている、大学院生向けアンケートの結果によるもの。FDとは、大学教員が教育の改善を目指す組織的な活動のことである。トイレに関する要望は少数意見ではあったが、文芸・言語専攻FD検討委員会がくみ上げ、改修前のトイレの状況調査や施設部などへの申請段階において、人社支援室の強力なサポートを得たことにより実現に至った。

今回の改修に深く携わった、平成20年度FD検討委員会の増尾弘美准教授（文言）は「事務とも協力しながら学生の声に答えることが出来てうれしい。これまでアンケート結果から多くの提案を実現してきた。今後もいろいろな意見を書いてほしい」と話した。

今年度の課題は、エキスポセンターをスタート地点とし、つくば中央公園を反時計回りに周回する1キロ強のコースを9時間以内に自律的に走行すること。このコースには方向転換ポイントが多数あり、また、道路環境も変化しても常んでおり、ロボットはそれに対応しなければならない。

20日に行われた140メートルのトライアル走行をクリアした34チームが、翌21日の本走行にチャレンジした。富士ソフトと筑波大学MRIMプロジェクトが共同開発した「TUFS2009」など5台が完走した。

本走行に進んだ本学のロボットには他に、知能ロボット研究室の「ひとつぼ」（自律走行記録620メートル）、同「山彦メロス」（同40メートル）と、つくばぼっとサークルの「TRC―09」（記録221メートル）があった。

HAL実演イベント

リハビリ中の人が体験 全国で貸与も進む

山海教授とHAL（先月14日）

「介護の日」の先月11日、本学の山海嘉之教授（知機）が最高経営責任者を務めるサイバーダイン（本社＝つくば市学園南）は、歩行のリハビリ中の人にロボットスーツHALを体験してもらうイベントを、水戸市の県庁県民ホールで行った。

HALは本学で研究、開発が始まった、人の動きを補助するロボット。装着した人が体を動かそうとする時に発生する微弱な電位差を皮膚の表面から読み取り、体の動きに合わせてロボットスーツが動作することで、装着者の動きを補助する。リハビリの補助や、筋力の弱くなった高齢者などの支援を主眼に開発され、現在既に日本全国で20カ所以上の医療施設や介護施設などに貸与されている。

10月には、デンマーク工科大と本学のサイバニクス拠点との提携や、サイバーダイン社の欧州拠点設置計画の存在が発表されるなど、海外での事業と研究開発も進んでいる。

司法試験

新司法試験 3人が合格

平成21年度新司法試験合格者が9月10日、発表された。本学法科大学院からは34人が受験し、合格者は昨年より1人多い3人だった。トップは東京大法科大学院の216人で、以下中央大法科大学院162人、慶應義塾大法科大学院147人と続いた。全体の受験者7392人中合格者は2043人、合格率は27・64％だった。

旧司法試験第2次合格者は先月12日、発表された。本学からの合格者はなかった。合格者数トップは東京大で20人、以下早稲田大15人、中央大13人と続いた。全体では受験者1万5221人中合格者が92人（合格率は0・60％だった。

収賄事件

本学職員を逮捕 不正経理の実態も

本学は先月26日、本学附属病院総務部医事課の栄養管理室長（50）が、附属病院の患者給食に関わる食材などの調達に関し、業者から現金を受け取ったとして、収賄の容疑で逮捕されたと発表した。

容疑は平成18年7月ごろ、患者給食用の食肉納入で便宜を図った謝礼として、現金30万円を食肉加工販売業者から受け取ったとしている。同室は、患者の栄養・食事指導や相談を行っている。報道発表では、収賄容疑について、同室長は「間違いありません」と認めているという。

また同室長には平成19年4月から平成20年10月にかけ、業者との取引において不正経理があったとの本学の調査結果も発表された。

本学は再発防止として、第三者納品チェックなどの契約業務の厳格化と適正化を徹底したと発表した。

反射鏡

今月のテーマ クリスマスプレゼント

祖父母に贈る感謝のお土産

安田将人（社学2年）

生まれてから一度もサンタクロースの存在を信じたことはないが、実家では父方の祖父母と一緒に暮らしていたこともあって毎年何かしらのプレゼントを買ってもらっていた。

幼い頃から祖父母にかわいがられて育ってきた私は両親からプレゼントをもらうよりも祖父母からプレゼントをもらうことの方が多かった。そうしたこともあってかプレゼントといえば祖父母からもらうものと今でも勝手にそう思っている。

小学生の頃はプレゼントといえばゲーム機やゲームソフトだった。クリスマスが近くなると祖父母と一緒に買いに行っていた。中学生になると、小学生の頃のようにこれが欲しいということは無かったが、クリスマスだからと言って祖母からプレゼントの代わりにお年玉と併せて現金でもらうことが多くなった。

大学生になってからはアルバイトをするなどしているので、ある程度は自分の好きなようにお金を使うことが出来るようになった。それにクリスマスプレゼントなんて言っている年でもないのかと思うこともある。

しかし、祖母は年末近くに実家に帰ると私に何が欲しいのかと聞いてくる。何か欲しいものをお願いするべきなのか、要らないと断るべきなのかと考えてしまう。大学生になって離れた場所で暮らすようになっても孫のことを思ってくれる祖父母に対して断ることは出来ずにいる。

今年は祖父母からもらうばかりではなく、実家に帰るときには祖父母に何かお土産を買って帰ろうと思っている。何を贈るかは決めていないが、祖父母への感謝の気持ちをこめたクリスマスプレゼントにしたい。

送ってみようサンタへの手紙

榊原敬治（物理1年）

もうすぐクリスマスです！皆さんはサンタクロースを信じていますか？

実は、実は！……サンタさんはいるんです！小さなとき、サンタさんからプレゼントをもらえるように良い子にしていたけど、どうやって欲しいものを伝えるか？ということに悩んだことはありませんか？

というわけで、無理やりなノリから、サンタさんに手紙を書いてみましょう♪

用意するものは以下です。

・ごく普通の封筒。
・サンタさんへの手紙（内容は下記参照）。
・国際返信用切手150円を2枚（これは郵便局で売っています）。
・110円切手1枚。

そして、なんと！サンタさんの住所は必要でなく、名前宛で届くようです！さすがネットワーク社会、素晴らしい……。

宛先：『Mr. Santa Claus Finland』海外に郵送する場合には、①番地②町など③区④市・郡⑤県⑥郵便番号⑦Japan⑧Air Mailの順番に書きます。ここまで出来たら後は、慣れ慣れしく手紙を書きましょう。

〈手紙の例〉内容は何でも構いませんが、英語で、自分を紹介しておねだりしちゃいましょう！

Dear Santa Claus, I am a school child in Japan……

私も上記の内容で送ったところ、バスケットボールが届きました！何っ！（まさかの親か?!）

ちなみに返信の保障はありません。（おいっ！）ですが、クリスマスの思い出にサンタクロースに手紙を出してみてはいかがでしょうか??きっと素敵なクリスマスが訪れますよ。

交換で大騒ぎ楽しい贈り物

鹿志村むつき（化学1年）

ありがたいことに、ここ約20年間で何回かクリスマスプレゼントを頂いたことがあります。そんなクリスマスプレゼントについて少し書かせていただきます。

覚えている中で最初に頂いたプレゼントは、「幸福な王子」という本でした。これは、いわゆるサンタクロースなる人物からのプレゼントでした。彼は欲しいものを紙に書いて木にくっつけておけばクリスマスの朝に自分のもとに届けてくれる、気前の良いおじ様です。当時、本を1冊頼んだだけでしたが、なぜか2、3冊頂いてしまったことに疑問を抱かずにいられなかったことを覚えています。後にサンタクロースの身元が判明するわけです。

月日は流れ、私は、自分はサンタクロースなのではないかという錯覚を抱くほどクリスマスとプレゼントを贈る行為を愛する人間に成長しました。夏はクリスマスが恋しくて、専らクリスマスソングを聞くほどです。高校時代には毎年クリスマスパーティを企画し、プレゼントを交換し合って騒いでいた覚えがあります。今年も、大学の新しい愉快な仲間たちと大騒ぎしたいものです。

さて、クリスマスプレゼントの何が良いかというと、何もしていないのにプレゼントが頂ける、誕生日でもないのにプレゼントが頂ける、ましてやジーザスクライストの誕生日つまり他人の誕生日であるにもかかわらずプレゼントが頂けるということです。贅沢ですよね。しかし、プレゼントのために1年間頑張れる私としては、海外文化とそれを柔軟に吸収する日本の国風、そしてクリスマスプレゼントを愛せるように成長出来たまわりの環境に感謝せねばならないと思っております。クリスマスプレゼント、いいですよ。

筑波時評

スパコン開発と行政刷新会議

国民生活に直結する事業 長期的視点からの議論を

宇川 彰

去る11月13日に、科学技術関係予算のトップを切って、次世代スパコン開発プロジェクトが行政刷新会議の事業仕分けにおいて議論され、「平成22年度予算計上の見送りに限りなく近い縮減」と結論された。

スパコンの開発とそれを用いた計算科学の研究で、筑波大学は長年にわたり世界トップクラスの実績を持つ。現在スパコンの主流は並列型であるが、1980年代にその世界的先駆けとなる研究が行われた。1996年には、計算物理学研究センター（現在の計算科学研究センター）で開発された超並列スパコンCP—PACSが世界のスパコントップ500リストの第1位を占め、2006年には後継機CP—PACSが開発されている。これらのスパコンを用いて、筑波大学では素粒子物理、宇宙物理を中心として計算科学の最先端の研究が展開されて来た。次世代スパコンについても理化学研究所と連携協定を結び、その開発に協力して来た。

今回の仕分けWGの結論に対して、基礎科学分野を中心とし、筑波大学からも多数が参加している研究者の集まり「計算基礎科学コンソーシアム」が11月19日に記者会見を行った。記者会見でのポイントの1つは、スパコンが国民の生活に直接・間接に結び付く最先端科学技術の要の1つであり、従ってスパコン技術は国の活力の源泉の1つとして維持することが必要であることである。科学的根拠に基づく地球温暖化予測や、地震や集中豪雨の予測、タンパク質解析による新薬候補の発見、新デバイスや新材料の発見はその具体例であり、素粒子や宇宙の基礎科学研究でも必須の役割を持つ。それ故にこそ、米国は長年にわたりスパコン開発に多大の投資をし、最近では中国やインドが独自の開発努力を加速している。

もう1点は、スパコン開発は進歩と競争の極端に厳しい世界であり、予算計上の見送りは中止・撤退に等しい影響を及ぼすことである。技術者の離散や製造設備の陳腐化、米国のリードの拡大などにより競争力を消失し、ひいては我が国のスパコン開発からの撤退をもたらしかねない。

事業仕分けでは、次世代スパコン等の大型プロジェクトに続き、さまざまの競争的研究資金、さらには全国86の国立大学法人やKEK等の大学共同利用機関法人の運営費交付金も対象となり、多くの場合に見直しや縮減の結論が下された。これに対して、多数の学会や大学、またノーベル賞受賞者達から反論が出ていることは周知のとおりである。

人類の文化の基軸を成す学術と教育、その重要な要素である科学技術については、我が国として、長期的なビジョンと確固とした方針の下に進めることが必要であることは誰もが同意することであろう。今回の事業仕分けと今後の議論が、科学技術・学術の長期的な位置付を考慮し、我が国のよりよい未来に向けての一歩となることを望んでいる。

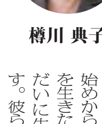
（企画評価・情報担当副学長）

私の一冊

少年たちの普遍的な孤独

ポーの一族

萩尾 望都著



樽川 典子

マンガ作品はそのジャンルごとに文体があり、作家たちも固有の文体の確立によってそれぞれの作品世界をつくり出す。その中でも萩尾氏は、極めて独自な文体を生み出して、少女マンガの可能性を豊かにすると共に、ファンを青年男女まで拡大したカリスマの一人である。彼女のデヴュー作であるこの作品は、完成度の高さに驚かされる。

主人公たちのエドガー、メリーベル、アランは、永遠に14歳のままで永劫の時を漂流しながら生きる。しかも赤いバラの咲く村に住んできたポーの一族が、村人のパンパネラ狩りにあって離散した。異界の者は、その共同体を失い、商業化しつつある街を、あるいはカントリー・サイドを転々と移り住まざるをえなくなった。3人の少年少女は、時間と空間をさまよう存在である。

そうした彼らの終わりなき生は、逆説的である。出自を悟られないため、人との係わりを避けようとするが、そのエナジーの補給は人間に依存しなければならない。そしてなによりも、思春期は友や恋をもとめる年代でもある。仲間に加えれば欲望は満たされるが、相手も自分も傷つけることになり、つながりを希求しながら、それを得られずさまよう宿命にある。人とのつながりを持てないゆえに、社会の出来事にも関与せず、傍観者のままでいる。時空をさまよう主人公たちの孤独を、萩尾は青年期に普遍的なものとして描こうとした。

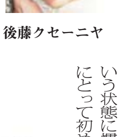
主人公たちは、18世紀始めから20世紀半の時空を生きたが、近代化はしだいに生きづらさを増す。彼らと遭遇した人びとの体験は、伝説の記憶を喚起するにとどまり、ほとんど痕跡を残さなかった。ところが、数人の貴族が日記や遺言を遺し、エドガーの肖像画を描いた画家がいた。20世紀に入るとその日記や記録が小説、論文として刊行され、さまざまな時代に登場するエドガー、メリーベル、アランの存在に気づいた人が現れる。関係者が体験を語る機会も設けられた。パンパネラは興味の対象になり、異界の者とそれを恐れる人びとというかたちの共存関係は終焉する。

消滅することを自ら選択する結末は、さまざまな文化や生き方を否定し、排除してきた近代化という社会変動の特質をよく示している。

（小学館文庫・第1・2巻590円、第3巻570円）（国共・准教授）

留学生の目

寒さで発見する日本



後藤クセーニヤ

日本で「寒いね」とつい言ってしまうと、「あなたはロシア人で、寒さになれてるんじゃないの?」と私は間違いなく人に言われる。確かに室外の寒さであれば、日本はロシアに遠く及ばない。ところが室内の寒さでは逆転する。

セントラルヒーティングのない日本の冬は、非常に寒い。外はマイナス10度でも、セントラルヒーティングのきいている室内では半袖で平気、という状態に慣れていた私にとって初めての日本の冬は大きな試練だった。

温度計が10度をさす室内で震えながら起きて、朝一番に耐え切れずにストーブを買おうと思って隣のデパートに走った。デパートには、室内の冬と戦うためのさまざまな武器が、目を引く場所に展示されていた。

暖房の王様コタツをはじめ、電気カーペット、窓際ボード、湯たんぽ、コートに近いパジャマ、ネックウォーマー、腹巻などなど。すべてを試したわけではないが、私がそれら多くの商品のなかでもっとも気に入ったのは、カイロだった。寒いとき、特に手と足がすぐに冷たくなる。そんなとき、カイロが非常に役に立つ。軽くて持ち歩きやすく、室内でも室外でも使えて、非常に便利だ。

暖房器具の中だけではなく、いかなる分野にも日本にしかない特性はたくさんある。そういう小さな発見は外国での日常生活を面白くする。それは私にとって、大切にしたい楽しみのひとつだ。

（人社研究員・ロシア）

次号のテーマは 私の必須アイテム です

連絡先
TEL 029・853・6699
e-mail shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

変革・発展の年 2009

2009年度、本学ではいくつもの大きな出来事があった。新学長就任を皮切りに、グローバル30採択、IBO開催と、話題の多い1年だった。また、科学、スポーツ分野では、例年と同じく、多くの功績が残された。今年度を振り返り、再び個々の出来事を眺めていこうと思う。（本紙・堀木陽子、光安素子＝人文学類、牛尾仁実、高橋俊樹、廣野尚人＝社会学類）

新学長就任

山田信博学長

「筑波ブランド」創る

「筑波大学をもっと外に発信して、『筑波ブランド』を創りたい」。昨年11月の学長予定者選出の記者会見で、山田信博学長はこのように述べた。岩崎洋一前学長の後任として、今年4月に学長に就任。来年度から始まる第2期中期計画や、グローバル30に対応したカリキュラムの整備などに精力的に取り組んで来た。

本紙では、2度（第274号、第276号）にわたり山田学長にインタビューを行った。最初のインタビューでは、「筑波ブランド」構築のベースとして、法人化後の本学の象徴である「つくばダイアモンド」を挙げ、学生との対話も積極的に進めていく旨を述べた。2回目のインタビューでは、「学生には自己表現をするチャレンジをしてほしい」と話し、学士課程プログラム（学群教育）の改革にも意欲を示した。

学群再編3年目、国立大学法人化6年目を迎えた本学ではあるが、取り組むべき課題は多い。先に挙げた第2期中期計画やグローバル30への対応に加え、教育・学術研究の充実、安心・安全な学生生活の確保などが喫緊の課題として挙げられる。また、山田学長は「学生との対話」にも前向きで、今後どのように具体化していくのかも注目される。

グローバル30採択

グローバル30とは、文部科学省の取り組みである「国際化拠点整備事業」の別名。留学生の受け入れを推進し、日本人学生の海外派遣を強化することで、国際的に活躍出来る高度な人材の養成を目指すものだ。

今年7月、本学を含めた13校が拠点大学として採択され、整備を進めるにあたり国から5年間財政支援を受けられることとなった。

本紙は3度（第279－第281号）にわたり関連記事を掲載した。本学は、①高い研究レベルに裏打ちされた知の蓄積②国際的なリーダーとなる人材の育成③地球的規模の課題に対する解決策の提示の、3点を果たすべき役割として設定。具体的な達成目標として、平成32年度には留学生を4500人（兼任を含む）にし、学生の4人に1人、教員の10人に1人が外国人である環境を目指す。

この採択にあたり、本学では来年度から、英語による授業のみで学位が取得出来るコースを学群で3コース、大学院で6コース以上開設する予定である。

9月には、ホーチミン（ベトナム）と北京（中国）の2カ所の新たな海外拠点について発表した。本学はこれまでに北アフリカ・中央アジア地域と連携を強めてきた。中国・東南アジアにも拠点を設けることで、既に拠点を設けているチュニジア（チュニジア）とタシケント（ウズベキスタン）2拠点と共に、優秀な留学生の確保や学術交流のための支援・情報収集を行う。今後もボン（ドイツ）や上海（中国）などに拠点を設ける計画だ。

また、10月には本学サイト内にグローバル30のホームページを開設、英語版の公開も行われている。ホームページには、来年度以降新設される英語プログラムの紹介、留学生の受け入れ達成目標、留学生への支援などが掲載されている。

世界を身近なものに

IBO開催

日本で初となる第20回国際生物学オリンピック（IBO）2009が、7月12－19日の8日間、本学を中心につくば市で開催された。本紙では3号（第277－279号）にわたり、IBOを取り上げた。

IBOは世界の高校生を対象とした生物学の国際的なコンテスト。スポーツのオリンピックとは違い、金メダルは成績の上位10％程度に与えられる。初の日本での開催に、世界56の国と地域から学生が集結した。

日本代表の選手は4人。大月亮太さんは、全参加者221人中6位に入り、金メダルを獲得した。その他の日本選手3人も銀メダルを獲得、過去最高の成績を収めた。

開催の中心が本学ということもあり、生物学類の学生ボランティアが大会をサポートした。総勢100人を超える学生ボランティアは大会の約2年前から準備を進め、2つのグループに分かれて活動を行った。1つは、「ガイド」という世界から来る代表を案内する仕事だ。学生が1カ国に1人割り当てられ、期間中一緒に行動し、日常生活の補助を行った。もう1つは「ジャーナル」という仕事で、期間中毎日の出来事をすべて英語で書き、「かわらばん」として発行した。

本学は、世界各国から集まったIBO選手たちに日本の夏祭りを体感してもらおうと、7月16日に「つくばナイト」を催した。交流会では和太鼓演奏や、YOSAKOIソーランの演舞が行われ、出店をイメージした料理も振る舞われた。会場が盛り上がる中、桐断舞によるソーラン節のレクチャーが行われ、会場が一体となって「ユニバーサルソーラン」を踊った。

学生が支えた祭典

「ユニバーサルソーラン」を踊る参加者たち

科学スポーツの1年

2009年も本学にとって、輝かしい年となった。

アベック優勝

第88回関東学生陸上対校選手権大会が、5月16－24日に国立競技場（東京・新宿区）などで行われ、本学男子が22年ぶり12度目の優勝。女子も17年連続19度目の優勝を果たし、アベック優勝を達成した。

安孫子充裕（体専3年）は、100メートル、1600メートルリレーで優勝し、この大会3冠を成し遂げた。

新女王

柔道の世界選手権大会が8月26－30日にオランダで開催され、48キロ級で福見友子（体育2年）が初出場で初優勝した。谷亮子（トヨタ自動車）が欠場し、日本の優勝を守る重圧の中、福見は悲願の金メダルを獲得し、新女王となった。

新発見

本学の永田恭介教授（シス医）らの共同研究グループが、インフルエンザウイルスタンパク質の構造を解明したと5月22日に発表した。この研究で、多様なインフルエンザに対処出来る新薬開発が可能になった。

新記録

本学の高橋大介准教授（CS）らが、2兆5769億8037万桁という円周率計算の世界新記録を樹立したと8月17日に発表した。これまでの記録の2倍を超え、大幅に記録更新した。

◇

他にも、本学ではいろいろなことがあった。下の表で今年1年を振り返ろう。

世界に挑んだ1年

力走する安孫子（右から2番目）

視点

学生も意識改革を

今年も例年に負けず劣らず、本学はたくさんの功績を残し、大きく発展している。また7月には、国際化の波に乗り、本学はグローバル30の拠点大学として採択された。

しかしこの急な制度的変革に、私たち学生がすぐに追いつくのは難しいかもしれない。「筑波ブランド」と言われても、具体的なものが思い浮かぶようになるにはまだ時間がかかりそうだ。留学生と積極的なコミュニケーションを図っている学生も多くはない。この変革を良い機会ととらえ、私たち学生も意識を変えていく必要があるのではないだろうか。

今年度の初めには山田信博学長が就任し、「筑波ブランド」構築を掲げている。また7月には、スポーツから科学まで、分野もさまざまである。猛威を振るっている新型インフルエンザへの対処の一助となる発見もあり、社会貢献も果たしたと言える。

2009年の筑波大学

4
- 山田信博新学長、誕生
- 学生証ICカード化
- 文系向け理系科目など、新総合科目開設
- 文部科学大臣表彰　2部門で本学から6人受賞
- 後藤博正講師（物分）らがタマムシ色に変わるプラスチック開発を発表
- 全日本選抜柔道体重別選手権　（48キロ級）福見友子（体育2年）　優勝

5
- 筑波大ブランド酒「桐の華」販売開始
- 永田恭介教授（シス医）らがインフルエンザウイルスタンパク質の構造解明
- 逢坂卓郎教授（芸術）企画「光の宇宙芸術」で宇宙空間初のラインアート実現
- 関東学生陸上対校選手権　男女総合優勝
- 世界ラート競技選手権　（斜転）江塚和哉（体専4年）　銅メダル
- （跳躍）田村元延（体育1年）　銅メダル

6
- 澁谷彰教授（シス医）と本多伸一郎講師（同）らが「免疫ブレーキ」発見

7
- グローバル30（国際化拠点事業）の拠点大学に採択
- 第20回国際生物学オリンピック（IBO）開催
- 全日本学生剣道選手権　西村英久（体専3年）　優勝
- アジアカヌースプリント大学選手権　（500M・200M）　小野祐佳（体専1年）　優勝
- 加藤陽一　つくばユナイテッドサンガイア　入団

8
- 濱中雅俊講師（知機）らがギター演奏を疑似体験出来るiPhoneアプリ開発
- 高橋大介准教授（CS）らがスーパーコンピュータで円周率世界記録更新
- 世界柔道選手権　（48キロ級）福見友子（体育2年）　優勝

9
- 海外拠点、新たにベトナムと中国に設置
- 日本学生選手権水泳競技大会　飛込　団体　優勝
- 100M　蛭田尚宏（体専4年）　準優勝
- 日本学生陸上競技対校選手権　女子　総合優勝
- 新型インフルエンザ猛威を振るう

10
- 第35回雙峰祭開催
- 台風接近で休講
- 菅平高原実験センター75周年
- 濱中雅俊講師（知機）らがギター演奏を疑似体験出来るiPhoneアプリ開発

11
- 福祉用HALのレンタル事業開始
- 舘野賢准教授（物理専攻）らがT1リパーゼ構造解明、計算理論開発
- 全日本エアロビック選手権　（シングル・ペア）　諏訪部和也（体専4年）　優勝
- つくばマラソン　水谷理紗（医専6年）　優勝
- 全日本学生ハンドボール選手権　男子　準優勝
- 全日本学生バスケットボール選手権　女子　優勝

（筑波大学新聞調べ）

雙峰祭での1コマ（上段）、「桐の華」（下段左）、「タマムシ色に変化するプラスチック」（同右）

全日本学生ハンドボール選手権大会

男子 準優勝、4年ぶりの表彰台
女子 善戦するも3位に

ハンド

全日本学生ハンドボール選手権大会が11月7―11日、いしかわ総合スポーツセンター（石川県金沢市）で開催された。本学男子は4年ぶりに決勝に進出し準優勝。女子は大阪教育大に延長戦の末敗れ、3位となった。

■男子

本学男子は7日の1回戦で関西2位の桃山学院大と対戦した。前半開始30秒、ペナルティスローで先制すると、19分までに10―7の3点リードに。その後相手の激しい攻撃にあったが、キーパー久保侑生（体専3年）の活躍で13―11とリードを守って折り返した。

後半5分30秒で19―12とさらに点差を広げ、エース樋口睦（同4年）が20点目を追加。するとそこから桃山学院大の猛攻が始まった。12分までに一気に6点を失い、21―18の3点差に詰め寄られる。本学のプレーを研究し尽くした相手のディフェンスに阻まれ、攻撃がシュートに繋がらない。18分30秒、ついに23―23の同点になった。

たまらず松木優也コーチ（体育2年）がタイムアウトをとり、サイドに佐藤秀吉（体専3年）を入れた。直後に23―24と逆転を許したものの、佐藤がすかさず2連続得点し25―24に。その後26―26と再び同点に持ち込まれたが28分、樋口が27点目を入れ逆転に成功。1点差を守りきり、辛くも1回戦を突破した。

2回戦以降は順調に勝ち上がり、4年ぶりに決勝進出を決めた。決勝では、長年のライバル日本体育大と対戦。前半、本学が先制し7分には5―2とリード。しかしすぐに逆転され、10―13で前半を終えた。

後半は16分に14―21と7点差にまで引き離されたが、相手のセットオフェンスに上手く対応し、20分から4連続得点。キャプテン木切倉真一（同4年）の速攻で21―25の4点差まで詰め寄った。しかしそのまま点差は縮まらず、25―29で準優勝となった。

松木コーチは「1回戦で思わぬ苦戦を強いられたが、他は順調だった。日体大のセットオフェンスをクリア出来たのも大きい。小柄なチームながら健闘したと思う。得点率を上げるのが今後の課題だ」と話した。

■女子

女子は9日に、ベスト4進出をかけて、武庫川女子大との準々決勝に臨んだ。前半、本学は佐内千那（体専3年）と石野実加子（同）を中心に、すべてのポジションからコンスタントに特典を重ねた。相手チームのミスもあり、18―12の6点差で前半を終えた。

後半開始5分以降、本学は13本のシュートを放つが得点につながらず、苦しい展開が続いた。その間、武庫川女子大は速攻で本学との点差を縮め、後半19分、20―20の同点に。そこから5分間、両者譲らず攻防戦となったが、作内のロングシュートと平川愛梨（同1年）の速攻で逃げ切り、同点となり延長戦へもつれ込んだ。

延長前半、本学のシュートミスから大教大が速攻を仕掛け、2点差をつけられた。延長後半では、シュートの、ゴールは決まらず、22―25で惜敗した。

水上一監督（体育・教授）は「チームとしてのまとまりがなく、プレーが空回りしていた。チームを引っ張る人材が出てくることが、今後の課題」と語った。

個人賞は以下の通り。【男子】優秀選手賞＝樋口睦、木切倉真一、久保侑生【女子】優秀選手賞＝石野実加子

宮崎翔平（体専3年）がシュートを放つ（日体大戦）

全日本女子学生剣道優勝大会

リード守り2連覇果たす
優勝回数でも日本一を達成

剣道

大学剣道の団体日本一を決める第28回全日本女子学生剣道優勝大会が11月8日、愛知県武道館（名古屋・港区）で開催された。56校が出場し、本学は昨年度に引き続き優勝を果たした。今回で通算7回目の優勝となり、鹿屋体大に並ぶ最多の記録である。

本学は初戦の愛知学院大戦で、代表戦までもつれ込む接戦となった。だがそれを制すと、以降はどの相手にもポイントを与えず、圧勝で自星を重ねて勝ち上がった。

迎えた決勝戦の相手は昨年準優勝の法政大を下した日体大。本学はそれまでと変わらず、淡々と臨んだ。試合は、互いにポイントを取れないまま、0―0で進んだ。試合が動いたのは副将戦。開始約1分半で本学の美浪未佑（体専4年）が柾込麻衣子から面を奪い、そのまま勝利した。

本学がリードした状態で勝敗の行方は大将の鈴木愛梨（同4年）に託された。相手は今年度全日本女子学生覇者の西野絢。しかも鈴木は西野に今年度の全日本女子学生選手権の1回戦で敗れていた。鈴木はその日調子の良かった西野を「相手は積極的にポイントを取りに来る」と読み、そこを狙うもりで臨んだ。試合は自分もポイントを得られなかったものの、相手を寄せ付けないものだった。本学は美浪の先制を守り切り、優勝を手にした。

主将の鈴木は「4年生で優勝出来たということがうれしい。同期の美浪はずっと一緒に一年からやってきたし、その日はのっていたから、決勝でも勝ってくれると信じていた」と話した。

有田哲一監督（体育・講師）は「うれしいの一言。よく頑張った。決勝は僅差ではあったが、勝つべくして勝った試合だと思う」と語った。

関東学生弓道選手権大会決勝大会

女子団体が準優勝
白石が個人で2位に

弓道

第41回関東学生弓道選手権大会決勝大会が、11月8日に東京武道館（東京・足立区）で行われた。

本学女子団体は、5週にわたるリーグ戦を全勝し、決勝大会に進出した。白石唯（体専3年）、上田理奈（同）、溺山可奈子（生資2年）が出場し、東海大、国際武道大と対戦。先攻の本学は60射45中、後攻の東海大は60射48中、国際武道大は棄権で本学は準優勝した。

女子個人では、白石が80射68中で準優勝、上田が64射54中で第3位を獲得。白石は「本来なら優勝すべきところであり自分の未熟さを自覚した。ここで満足することなく、より努力を重ねていきたい」と語った。

2人は11月23日に伊勢神宮弓道場（三重県伊勢市）で行われた第33回女子東西学生弓道選抜対抗試合に、白石は3年連続、上田は初めて出場した。同試合では東軍が150中で、166中の西軍に敗れた。

上田は「神聖な伊勢の地で弓を引けたことにより多くのことを学んだ。今後はチームとしてもより力を出せるよう、射技だけでなく精神面も鍛えていきたい」と意気込みを述べた。

ピアノ愛好会晩秋コンサート

オリジナル曲など10曲演奏
ハーモニーに観客聴き入る

本学のピアノ愛好会による「ピアノ愛好会晩秋コンサート」が、先月20日に矢学会館ホールで行われた。コンサートは途中休憩を挟む2部構成で、リストら作曲のクラシック音楽から現代音楽、会員によるオリジナル曲まで全10曲が演奏された。また演奏形態も、ピアノ以外の楽器とのアンサンブルや連弾、弾き語りなど多岐にわたった。

第1部の冒頭では、会員の畑野舞子さん（医学2年）がピアノと、友人の河野加奈さん（同・バイオリン）が、葉加瀬太郎の「情熱大陸」を演奏した。会員が、会員ではない友人と一緒に演奏をするのは、ピアノ愛好会のコンサートではよく見られる光景だ。ダイナミックなピアノの音色と伸びやかなバイオリンの音色が織りなすハーモニーに、観客は聴き入っていた。

第2部では、金井啓介さん（生物3年）が、ノエル・ギャラガーの「The Masterplan」を弾き語りした。哀愁感漂うメロディーと金井さんの甘い歌声が印象的だった。

演奏を聴きに訪れた古川彩香さん（医学3年）は「友人の演奏を初めて聴いた。良い演奏をしていて驚いた」と話した。また、ピアノ愛好会のコンサートに何度も足を運んでいるという妻野勇輝さん（教科研2年）は「クラシック音楽だけではなく、連弾やオリジナル曲など普通のコンサートにはないジャンルの曲が楽しめる」とコンサートの魅力を語った。

同会会長の長谷川可織さん（人文2年）は「テストの前にもかかわらず、多くの人に聴きに来てもらえてうれしい」と語った。

バイオリンとのコラボレーション「情熱大陸」

シンポ「光と色と知覚の世界」

勝井氏が自身の作品語る
展覧会と同時開催

グラフィックデザインで知られる、勝井三雄氏の展覧会「勝井三雄展―色光の紋章」が10月20日―11月1日に本学アートスペースで開催された。これに伴って、シンポジウム「光と色と知覚の世界」が10月28日に勝井氏を招いて大学会館ホールで開かれた。シンポジウムにはパネリストとして心理学者の佐藤隆夫氏も招かれ、司会進行は西川潔副学長（学生担当）が務めた。

勝井氏は現在武蔵野美術大学名誉教授も務め、ニューヨークADC金賞をはじめ、各国のビエンナーレ（展覧会）でグランプリを受賞するなどしている。

展覧会では「色と光」をテーマとしたグラフィック作品数十点を並べ「暖かさ、「冷たさ」、「重さ」といった色彩が伝える表現世界の一面を思考する展示とした。

シンポジウムでは、作品のコンセプトから、コミュニケーション論、文化論に話を広げ、佐藤氏が知覚心理学の立場から意見を展開した。

勝井氏は作品について「どのような意図でその人が作品を作ったのか、その世界観に浸ることで変わった世界が見えて来る」と奥深さを語った。

また、参加者から「デザインをする上で大切なことは」と質問されると、「こうしたい、こうありたいと思う感性や、感覚が大事で、その思いをデザインすると、いろいろなものが関係して見えて来る」と答え、続けて「ただ、独りよがりではまずい部分もある」と加えた。

シンポジウムに参加した中田安美さん（芸専3年）は「作品だけを観るより、人の話を聞くと、違った見方や感じ方が出来て良い」と瞳を輝かせた。

斬桐舞フランス公演

パリでイベントに参加
観客と共に踊る一幕も

本学のYOSAKOIソーランチーム「斬桐舞」が先月7、8日にかけてフランス・パリで開かれたSAMURAI JAPON 2009で公演を行った。同イベントはSAMURAI JAPON2009実行委員会が主催し、在フランス日本大使館などが後援している。日本の音楽・文化・芸術を通じてフランスの人びとに「日本の心」「日本の美」を伝える交流イベント。今年で6回目を迎える。

ステージでは斬桐舞のYOSAKOIソーランのほか、浄瑠璃や三味線演奏などが披露された。斬桐舞から出演したのは本学生7人を含む9人。1日目の公演では約600人の観客が集まった。パフォーマンス中には観客に振り付けを教え、一緒に踊る一幕もあった。

谷川さんは「今回の晩秋コンサートと同様、オリジナル曲などさまざまなジャンルの曲を演奏するので、ぜひ聴きに来てほしい」と話している。

講道館杯

緒方が初優勝、田中は3位入賞

柔道

緒方亜香里

田中浩平

各階級の全日本強化選手の選考会と2010世界柔道選手権大会（東京・代々木第1体育館）の日本代表第1次選考会を兼ねた講道館杯が、11月14、15の両日、千葉ポートアリーナ（千葉・中央区）で開催された。本学からは16人が出場し、78キロ級に出場した昨年準優勝の緒方亜香里（体専1年）が初優勝に輝いた。また、66キロ級の田中浩平（同2年）が準優勝の成績を収めた。なお、本大会は12月11－13日に行われるグランドスラム東京2009国際柔道大会（東京体育館）の選手選考も兼ねている。

この日、緒方は乗っていた。初戦から相手を寄せ付けずに一本勝ちを重ね、準決勝まで進んだ。相手は昨年の覇者で、緒方を決勝で破った穴井さやか（ミキハウス）。緒方は開始間もなく、得意の寝技に引き込み、足を固めながらの崩上四方固で一本。雪辱を果たした。続く決勝の相手は今年の選抜体重別で敗れていた池田ひとみ（自衛隊体育学校）。緒方は積極的に攻め、相手への指導2つで優勢勝ち。念願の優勝を果たした。

緒方は「去年は決勝で負けて、本当に悔しい思いをした。今年こそはという思いだった。今回も本当は、全部一本で勝ちたかった。来年度は世界選手権に選ばれたいので、グランドスラムに懸けている」と意気込んだ。

田中は、初戦から得意の足技の有効ポイントで勝ち上がった。準決勝の相手は明治大の海老沼匡だったが、不用意に飛びついた所を一本背負いで投げられ、一本負け。入賞を懸けた敗者復活戦では、延長戦で有効を決め、森下純平（体専1年）に勝利。続く3位決定戦では関節技で一本を取り、入賞を果たした。

今回の結果を受けて、田中は「負けたのが同級生なので、うれしくはない結果。グランドスラムでは優勝を狙いたい。確実にポイントを取って勝てるよう集中し続けたい」と話した。

増地克之監督（体育・講師）は「シニアの全日本体重別ということで、勝ち上がるのは難しかったと思う。しかし、入賞出来る選手はまだいた。緒方は、力的には優勝出来るものを持っていたが、ここまで強くなっているとは。来年の日本代表候補だ。田中は、潜在能力はピカイチ。グランドスラムはチャンスを生かせるようにしてほしい」と話した。

女子団体　第1回大会で優勝果たす
男子団体　強豪明治を下し準優勝

◇

第1回全日本柔道女子選抜体重別団体優勝大会が11月22日、埼玉県立武道館（上尾市）で開催された。18校が出場し、本学は第1回大会優勝校に輝いた。また、伊部尚子（体専4年）と緒方が優秀選手に選ばれた。

本学女子部員は全員で11人しかおらず、他大学に比べて少数だが、それをものともしない個々の力で初戦を勝ち上がった。

続く2回戦は選手層の厚い東海大だった。総合的な力では本学よりも上で、ここが一つの山であった。藤田康恵（同）が今年度世界ジュニア70キロ級覇者の田知本遥を、竹内愛美（同1年）が今年度の講道館杯52キロ級準優勝の渡邉美樹を、それぞれ引き分けに抑えたことで、本学のチャンスが広がった。他の選手もそれぞれが役割を果たし、3－2で東海大を下した。その後、準決勝、決勝と勝ち続け、優勝した。

主将の伊部は試合について「初めての7階級での優勝は本当にうれしい。チームが勝つためには役割があり、一つひとつ自分の仕事をこなすことが大事。東海大戦は特にそうだった」とコメントした。

増地監督は「選手たちは良くやった。チームがしっかりとまとまっていて、取るべきところで確実に取れたことが良かった。このことを自信に変えて、次も頑張ってほしい」と評価した。

◇

第11回全日本学生柔道体重別優勝大会が11月2、3日、尼崎市記念公園体育館（兵庫県）で開かれた。51校が出場し、本学は準優勝の成績を収めた。また、本学からは粟野靖治（体専3年）と西山大希（同1年）が優秀選手に選ばれた。

本学は初戦と2回戦の相手を圧倒して順調に勝ち上がり、準々決勝に駒を進めた。相手は昨年度優勝校の明治大だった。7戦終えて2－2と善戦し、代表戦にもつれ込んだ。そして代表戦を制し、準決勝へ進んだ。

続く天理大戦を4－1で圧勝し、決勝へ。相手は選手層も厚く、上位常連校の東海大。本学はここ数年、東海大に負け続けていたが、今回もその連敗記録を止めることは出来ず、0－3で敗れ、優勝を逃した。

増地監督は「今までベスト8止まりだったので、殻は破ったという結果。だが、課題の方が大きい。準々決勝の明治大とは紙一重の勝負になるとは思っていたが、もう少し欲があれば違ったかもしれない」と語った。

全日本ラート選手権

田村総合2連覇

体操

第15回全日本ラート競技選手権大会が、11月14、15日に東海大学開発工学部体育館（静岡県沼津市）で行われた。本学の田村元延（体育1年）が個人総合2連覇を達成、三宅麻衣子（体専3年）が2種目で優勝し個人総合で3位に入るなど、本学勢の活躍が光った。

田村は、前回は基本的な技で確実に得点を挙げた。今大会では前日の練習で右手親指骨折というアクシデントに見舞われたものの、全種目で難度を上げた技で挑戦。大きなミスもなく、冷静に演技を終えた。田村は「意外にけがの影響も少なく、演技構成も良かったのでプレッシャーはなかった。良い緊張状態で、イメージ通りの演技が出来た」と語った。

本大会は来年3月に行われる世界チームカップラート選手権の選考も兼ねており、日本代表に田村ら本学関係者3人が選ばれた。本学谷聡監督（体育・講師）は、「どの選手も着実にステップアップしている。これからもさらに上のランクを目指してほしい」と語った。

個人総合で2連覇を果たした田村

Ksスタ改修記念

齋藤、石塚が優勝

家電量販店ケーズデンキを展開する、ケーズホールディングス（本社＝水戸市）が、水戸市立競技場のネーミングライツ（命名権）を取得した。同スタジアムは平成19年から改修工事を始めた。今回の完成を記念して11月3日、「水戸市招待陸上兼水戸市陸上競技選手権大会」が行われた。

男子100㍍の部では、齋藤仁志（体専4年）が10秒55で優勝。伊丸岡亮太（同）が10秒72で3位と記録を残した。また、男子400㍍では石塚祐輔（同）が優勝を果たした。

全日本大学バスケットボール選手権

女子5年ぶり9回目の優勝
逆転で愛知学泉大を下す

バスケ

逆転ゴールを決める中川明子（体専4年）

第61回全日本大学バスケットボール選手権大会が、11月23日－12月6日にかけて開催された。男子は12月2日に、大阪市中央体育館（大阪・港区）で高知大と初戦。女子は、29日に国立代々木技場第二体育館（東京・渋谷区）で決勝戦を迎え、愛知学泉大を87－85で下し、5年ぶり9回目の優勝を果たした。

本学女子は初戦から勢いに乗り、準決勝まで順調に駒を進めた。準決勝の相手は今シーズン負け越していた拓殖大。第1ピリオドで大鷹さおり（体専4年）らが要所で3Pシュートを決めリードを奪った。第4ピリオドで拓殖大の猛追を受けるも序盤のリードを守り、61－59で勝利。優勝へ王手をかけた。

決勝は、東海1位の愛知学泉大とぶつかった。序盤から相手の奇策に惑わされたが、天野佳代子（同3年）が連続得点を挙げるなど、36－32とリードして前半を折り返す。しかし、中盤でミスが相次ぎ、55－58と逆転されたまま第4ピリオドを迎えた。宮本理沙（同）の鋭いドライブで加点するが、残り26秒で愛知学泉大に同点となるジャンプシュートをねじ込まれ、勝負の行方は延長戦へ。

延長戦開始直後から、連続得点を許し愛知学泉大ペースで試合が動く。焦りからミスを連発するが、中川明子（同4年）らが起死回生のバスケットカウントを決め、流れを取り戻す。残り40秒で81－85と4点差をつけられたが、中川の3Pシュートなどが決まり逆転。愛知学泉大も必死に追いかけたが、それも及ばず87－85で試合終了。劇的な大逆転で、全国制覇を果たした。

大高敏弘監督（体育・教授）は、「守り中心の本学らしいプレーが出来た。勝利への執着心で粘り強くいけた」と感想を語った。

個人賞は以下の通り【女子】最優秀選手賞＝大鷹さおり▽優秀選手賞＝服部直子（体専3年）、福士佳恵（同）

天皇杯・皇后杯

本学女子、実業団破る
1年生コンビが活躍

バレー

バレーボールの日本一を決める平成21年度天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会のセミファイナルラウンドが、11月14日、全国各地で行われた。本学球技体育館でも、本学女子バレーボール部とV・チャレンジリーグのPFUブルーキャッツとの試合が行われ、3－1で本学が勝利した。

対戦相手のPFUは昨年のV・チャレンジリーグの覇者。関東秋季1部リーグを制覇した本学女子は、第1セットこそ17－25で落としたものの、第2セットはセッター渡邉美穂（体専3年）を中心とする攻撃が機能し、25－10で相手を圧倒。第3セットは終盤にピンチサーバーとして入った小林萌子（同4年）がサービスエースを決めるなど、終始リードを続けて25－20で連取。第4セットは中盤までリードを許したが、キャプテン皆本明日香（同）の連続得点で追いつくと、交代で入った野末夏子（同2年）と正里菜（同1年）の活躍で勝ち越し。最後は彌永衣利（同）がスパイクを決め、25－22で相手を退けた。

中西康己監督（体育・准教授）は、「1年生が活躍して戦力としてのめどが立った。あとは全日本インカレだが、結果はあまり気にせず、上級生にも頑張ってもらいたい」と述べた。

12月17日からは、ファイナルラウンドが東京体育館（東京・渋谷区）で行われる予定で、本学はV・プレミアリーグの久光製薬スプリングスと対戦する。

アジア陸上選手権200㍍

齋藤が3位に入賞

陸上

第18回アジア陸上競技選手権大会が11月10－14日に、中国・広州で行われた。本学からは齋藤仁志（体専4年）が出場し、男子200㍍の部で見事3位になり表彰台に上がった。タイムは21秒10と自己ベストには及ばなかったが、日本代表として堂々たる成績を収めた。また、同じく日本代表として出場した高平慎士（富士通）は、21秒08で2位と好成績を残した。

今大会は齋藤にとって学生時代最後の大会。齋藤は「格上の選手達の中でも、優勝を目指していたので残念」と話した。今後も実業団に所属し、陸上を続けて行く予定だ。

全日本選手権

2部門で優勝
世界大会へ進む

エアロビック

諏訪部和也

スズキジャパンカップ2009第26回全日本エアロビック選手権大会の全国大会が、11月1日東京体育館（東京・渋谷区）で開催された。本学から諏訪部和也（体専4年）が出場し、シングル部門とペア部門で優勝。シングル、ペア共に来年の世界選手権への切符を手に入れた。

諏訪部は大会直前に負傷。ベストの状態ではなかったが、一つひとつの技を確実にこなした。シングルでは、ジャンプのひねりを多くし難度を上げるなど高度な技を連発。昨年の準優勝の雪辱を果たした。

ペアでは、昨年に続いて高橋愛（工学院八王子専門学校2年）と組み、息の合った演技を披露。リフトなどの難易度の高い技も成功させ、並み居る強豪を抑えて2年連続で優勝した。

諏訪部は、「納得いかない演技もあったが、自分の演技に集中出来、国際大会を見据えた良い大会になった。課題を克服して、本気でぶつかりたい」と世界選手権への抱負を述べた。

学生の危機意識を考える

「優しさ」に付け入る被害多発
詐欺や勧誘を断る勇気を

相手に悪いから断れない……。最近の学生の特徴である、必要以上に相手のことを考える「優しさ」を逆手にとった悪質な詐欺や勧誘が各地で多発し、本学生にも被害が及んでいる。

昨年11月には、本学生が、道を尋ねてきた男に5万円をだまし取られた。学生が道順を説明しても男は「分からない」と言うので、インターネットで教えようと男を自分の部屋に招き入れた。すると男は「パチンコで金をすった。自分はやくざだ」と脅し、学生から金を奪った。

その他、インターネット詐欺や高収入のバイトを装った詐欺などの被害にあった事例が多数あるという。

本学では宗教団体に勧誘される学生も多い。「自分なら入らない」と思っていても、実際には、サークルや勉強会を装って勧誘されるため「相手に悪い」と断れない場合もある。

9月ごろからは、T―ACTなど大学の公式な活動を装うという巧妙な手口で、活発に勧誘しているという報告が、学生生活課に寄せられている。

すでに団体の活動に参加した学生の中には、宗教団体であることを知った後でも誘ってくれた人に申し訳ないと退会をためらうことがあるようだ。

退会を決意した後でも、「退会の意思を団体に伝えに行く」と〝配慮〟を見せる学生すらいる。学生生活課では「だまされて勧誘されているのだから、相手へのそのような配慮は必要ない」としている。

詐欺や宗教勧誘に対しては誘いを断っても、相手が傷つくことはない。少しでも「おかしい」と感じたら、きっぱり断り、学生生活課やクラス担任などに相談することが被害にあわないための最善の防御策だ。

タイ協定校の学生来学

日本の農業を体験する
本学生がタイ訪問も

本学の協定校であるタイのカセサート大学で農業を学んでいる学生25人が10月19日―31日にかけて本学を中心に茨城や東京を訪問した。一行は本学の教員や生物資源学類の学生と共に農業関連施設の見学や農作業の体験などをした。

この取り組みは生物資源学類が主体となって毎年行われている。今年は毎年恒例の農業関連施設の見学に加え、茨城県県西農林事務所の紹介を通して実際に桜川市と筑西市の農家で農作業の体験をした。

24日、学生たちはキュウリやトマトの収穫や大豆の除草などの作業を体験した。翌25日にはJA北つくばを訪問。農作物が機械で袋詰めされる現場などを見学した。学生からは「これからのタイの農業への教訓になる。非常に良い機会だ」などの声が聞かれた。

先月末には今度は生物資源学類の学生が同じような目的でタイを訪問した。これらの本学とタイの協定校の農業分野における相互交流プログラムはこれからも続けられるという。

今回のプログラムに携わった野村名可男講師（生物機能）は「日本の農家にとっても海外との交流は良いきっかけになると思う」と感想を述べた。

就職支援団体JeweL

企業の合同説明会を実施
研究員・公務員の説明会も

筑波大学就職支援団体JeweLが主催する「筑波大生のための合同説明会」が先月5日、大学会館ホールと特別会議室で開かれた。5回目の開催となる今回は、過去最多の約1200人の学生が参加し、前回の約350人から規模を大幅に拡大した。

本企画は、授業などで忙しい本学生に、身近な所で企業や社会人との接点を設ける場を提供することを目的として開催された。OB・OGが就職している幅広い業界の企業を本学に招き、実際に話をしてもらうことで、多くの本学生に良い効果がもたらされることを期待している。

今年度は去年までに比べ就職事情が厳しいということもあり、さまざまな業界に目を向けてもらおうと、「企業」就職希望者だけではなく、「研究員」「公務員」も視野に入れた形が取られた。当日は、企業、官公庁、研究所からそれぞれ担当者を招き、「働くとは？」というテーマでパネルディスカッションを行った。その後、ブースごとの企業説明会が実施され、就職を希望する学生たちは就職希望先の理解を深めた。

基幹要員として参加した染谷悟さん（医科学2年）は「学生に対して社会や企業との接点を設けられて良かった。不況もあって、学生の意識は高い。今回の大幅な人数増はそれを如実に示している」と話した。

熱心に説明を聞く学生

茨城県観光ポスター

本学生らがデザイン
全国の駅で掲載される

本学生らがデザインした本県の観光ポスターが先月1日から1カ月間、全国1460カ所のJR主要駅で掲示された。11月は本県がJRグループの重点宣伝地域となっていたためだ。

デザインに関わった芸術専門学群構成専攻ビジュアルデザイン領域の4年生1人、3年生5人で、アイデアを出し合った。

ポスターは本県の魅力を全国に発信しようと制作された。「いばらきっ！」の文字とともに偕楽園やアンコウ鍋など、観光地と名産品の写真やイラストを合成し、5枚1組で早朝から夜までを表現。茨城はいつでも楽しむことが出来、「懐の広さ」「多様さ」などがあることを表した。

今回のポスター作成は漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会（会長・橋本昌知事）が若者の斬新な発想を取り入れようと、本学の原忠信講師（芸術）に協力を依頼したことがきっかけ。原講師の呼び掛けで学生6人が集まった。

ロボ・カフェ

研究者と交流

イーアスつくば内のサイバーダインスタジオで、本学のサイバニクス拠点の主催による「ロボ・カフェ」が先月14日に開催された。

今回で3回目の開催となる「ロボ・カフェ」は、ロボット技術の開発の進展による人間とロボットの共生の可能性について、研究者と市民が交流することを目的としている。

今回は、本学で自動車の安全運転の支援技術を研究している伊藤誠准教授（リスク）が、自動車の安全運転技術研究の現状、将来の展望などについて語った。

「ロボ・カフェ」は参加無料。事前に主催者への参加申込みが必要な場合もある。問い合わせ先＝029・853・5630（筑波大学サイバニクス国際拠点事務局）

「桐の華」再販売

一升瓶の販売も

大学ブランド酒として、今年5月に販売された、純米吟醸酒「桐の華」が先月27日から再販売された。前回の販売では、限定1500本が約一カ月で完売となっていた。

今回は、前回の4合瓶（720ミリリットル）に加え、一升瓶（1・8リットル）と2合瓶（300ミリリットル）と種類を拡充して販売する。UTショップ大学会館店他、市内のスーパーや酒販売店などで購入出来る。値段は、2合瓶500円、4合瓶1600円、一升瓶3150円（すべて税込）。

日本・ASEANユースリーダーズサミット

青少年同士が交流する
ASEANと連携強化

日本・ASEANユースリーダーズサミット2009が10月31日―11月3日に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京・渋谷区）で行われ、本学から学生6人が参加した。

このイベントは内閣府と（財）青少年国際交流推進センターの主催で行われたもの。日本とASEAN各国及びASEANとの連携を強化するため、より多くの青年が日本とASEAN諸国を結ぶネットワークに参加することを目的としている。

イベントでは、英語でのディスカッション及び文化交流を中心とした合宿型国際交流プログラムが行われた。

参加した染谷悟さん（医科学2年）は「ASEAN各国に友人が出来、自分がアジア人であると初めて認識した。国際総合学類からの参加がほとんどだが、他の学類からもどんどん参加してほしい」と語った。

三系新委員長決定

来年の抱負語る

2010年の文化系サークル連合会、芸術系サークル連合会の運営委員長と、体育会執行委員長が決定した。

文サ連の新委員長は大関勇介さん（人文1年・歴史探訪会）。「所属する団体同士の親交を深めていきたい」と話した。

大関勇介

芸サ連の新委員長は三上由佳莉さん（社会2年・Doo―WoP）。「構成員の皆さんに信頼されるような芸サ連にしたい」と語った。

体育会の新執行委員長は一杉亮さん（体専3年・蹴球部）。「いろんな意見を言って頂き、体育会を良くしていきたい」と語った。

一杉亮

三上由佳莉

就職内定先一覧
平成21年11月24日現在 就職課報告分

【人文学類・11人】旭化成ホームズ▽日本放送出版協会▽丸紅▽トラスコ中山▽セリア▽山梨中央銀行▽三菱東京UFJ銀行▽コーエー▽日本旅行▽人事院▽東京都公立学校【社会学類・14人】新日本製鐵▽ジェイテクト▽日本電子▽成田国際空港▽伊勢丹▽常陽銀行▽日本生命▽星野リゾート▽サンライズプロモーション東京▽クラブツーリズム▽独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構▽金融庁▽総務省【自然学類・3人】カルピス▽中外製薬▽トーア再保険【比較文化学類・6人】全日本空輸▽郵船航空サービス▽阪急交通社▽日本放送協会▽ホテルオークラ東京▽コンベンションリンケージ【日本語・日本文化学類・3人】日通商事▽東京都特別区▽茨城県庁【人間学類・3人】フランスベッド▽ベネッセスタイルケア▽東京都庁【生物学類・2人】光通信▽愛知県庁【生物資源学類・4人】松屋フーズ▽日本政策金融公庫▽新潟総合テレビ▽農林水産省【社会工学類・8人】三菱東京UFJ銀行▽ゆうちょ銀行▽常陽銀行▽野村證券▽全国銀行協会▽フューチャーアーキテクト▽静岡市役所▽世田谷区役所【情報学類・4人】ナナオ▽富士通▽インターネットイニシアティブ▽日本レジストリサービス【工学システム学類・2人】日鉄日立システムエンジニアリング▽VSN【国際総合学類・16人】日揮▽北海道新聞社▽リクルート▽国際石油開発帝石（INPEX）▽三菱重工業▽千代田化工建設▽東日本旅客鉄道▽伊藤忠商事▽ココスジャパン▽住友商事フィナンシャルマネジメント▽三菱東京UFJ銀行▽野村證券▽NTTコミュニケーションズ▽長野県庁▽東京都庁【工学基礎学類・2人】Hitz日立造船▽西日本旅客鉄道【体育専門学群・10人】森永乳業▽サントリーフーズ▽大日本印刷▽富士ゼロックス▽ミズノ▽東海旅客鉄道▽双日▽オープンハウス▽サイバー・コミュニケーションズ▽博報堂【芸術専門学群・4人】虎屋▽山梨中央銀行▽東京都公立学校▽香川県公立中学【図書館情報専門学群・20人】日本デジタル研究所▽西日本旅客鉄道▽東日本旅客鉄道▽東日本電信電話▽静岡銀行▽日立公共システムエンジニアリング▽三菱総研DCS▽第一生命情報サービス▽コーエー▽DIRシステムテクノロジー▽明治安田システム・テクノロジー▽味の素システムテクノ▽NTTコムウェア▽ピーアンドアイ▽シンフォーム▽独立行政法人中小企業基盤整備機構▽独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構▽群馬県警察本部▽栃木県庁

◆就職課から◆就職内定者はぜひ就職課に報告するようにして下さい。今後の就職支援に生かします。

茗渓・筑波グランドフェスティバル

在校生と卒業生の交流

茗渓・筑波グランドフェスティバルが来年1月30日、本学大学会館講堂などで開催される。12時に受付開始、午後1時に開始予定。

今大会のテーマは「構え！」。その一言に観客も息をのむ。迫り来る波や力強く綱を引く動きこつひとつから気迫が伝わってくる。昨年10月に出来たYOSAKOIソーランチーム「斬桐舞」の真ん中には舞長、守屋俊甫さん（体育1年）がいた。

結成したのは、昨年の雙峰祭でYOSAKOIソーランを北海道民会で踊ったことが始まりだった。意外にも、学祭でやるまでメンバーもソーランは授業で少し踊ったことがある程度だった。そもそも、YOSAKOIソーランは20年程前に高知県のよさこい節と北海道の民謡ソーラン節が合わさって出来た比較的新しいものだ。

学祭終了後、チーム名を「斬桐舞」と改めた。その頃から斬桐舞は「ユニバーサルソーラン」をチームコンセプトとして掲げるようになった。きっかけは守屋さんの友人で当時、本学大学院研究生の大平啓朗さんだった。

大平さんは事故で6年前に視力を失った。昨年春に2人は北海道民会を通じて知り合う。大平さんも一緒にソーランを踊れないものかと考えた守屋さんは、同年8月に大平さんに誘われ訪れた函館市の「ユニバーサル上映映画祭」を思い出した。映画祭は、聴覚障害がある人にはジェスチャーのようなミュージックサイン、視覚障害がある人には音声ガイドで誰でも楽しめる工夫をしていた。そこから守屋さんは「どうしたら踊れるか考えれば誰でも楽しむことが出来る」ということに気付いた。

大平さんは、他の人の踊りを見て練習することが出来ないため、守屋さんの動きを触りながら腕の角度などを覚えた。また、人の動きを見て自分の動きを修正出来ないため、一つひとつの振り付けに「綱引き」「艪（ろ）を漕ぐ」など動きをイメージしやすい呼び方をつけた。

斬桐舞は現在、つくば市周辺を中心に、月数回、地域のイベントや市内外のお祭りなどで演舞している。今年の2月からは障害児者中心のYOSAKOIソーランチームとの練習も定期的に行っている。チームには車椅子に乗ったメンバーもいた。その中で、リハビリは嫌いでも、始めの構えは頑張って不自由な腕を伸ばすメンバーを見て「みんなが同じ動きをしなくても、その人の100％の動きでやればいい」とユニバーサルソーランの可能性を実感することが出来た。

ユニバーサルソーランは国境も越える。今年7月に本学などを会場に行われた国際生物学オリンピックでは、世界56か国から集まった選手の前で演舞。3つの振り付けを選手たちにも覚えてもらい、会場全体500人が一斉に踊った。言葉や文化が違っても踊る楽しさを分かち合うことが出来た。こうして斬桐舞は、見せるだけの演舞から、見る人も一緒に、という スタイルを確立した。

先月、斬桐舞の代表9人がパリで開かれたSAMURAI JAPON 2009というイベントに参加。そこでも現地の人と一緒に「どっこいしょ」と掛け声を掛けながら踊った。パリでの成功で守屋さんは「どこに行っても人を楽しませることが出来る」ことを確信した。

イベントに引っ張りだこの守屋さんだが、自分について「祭のバカ」だという。どうやら人を楽しませることが好きなのは昔からなようだ。一方、副舞長として守屋さんをずっと見てきた佐々木啓太さん（医専3年）は「太陽のような存在だけど意志は強い」と話す。パリ公演で渡航費に困ったときも守屋さんがメンバーを引っ張った。

守屋さんの目標は2つ。1つはYOSAKOIソーランゆかりの高知と札幌で踊ること。もう1つはつくばで祭りを主催すること。「自分たちが楽しむことで見る人も楽しませることが出来る」が持論。守屋さんのソーランは障害や言葉の壁を越え、その輪を広げていく。（本紙・篠崎真希＝国際総合学類）

Who's Who?

YOSAKOIソーランチーム「斬桐舞」初代舞長

守屋 俊甫 さん（体育1年）

イーアスつくば（つくば市研究学園）での演舞

無絃塾卒業講演

新年24日、ノバホールで

津軽三味線倶楽部無絃塾の第12回公演が、来年1月24日、ノバホールで開催される。

今回の卒業公演では、東北民謡の吉田昌紀子氏、尺八名手3代目の榎本秀水氏、和太鼓奏者の菅原光朗氏などがゲスト出演する。

開演は午前の部が午前10時半、午後の部が午後4時半。開場は開演のそれぞれ30分前。入場料は一般3000円、学生1500円。

問い合わせ＝029・887・0571（井坂）

冬休み図書館

返却日は1月6―20日

附属図書館は12月27日―1月5日まで休館する。この冬期休業にともなって貸出期間が変更される。

12月2日から29日までに一般貸出と更新（休館中はWebからの更新）を受けた図書の貸出期間は、通常より延長され、1月6―20日まで返却日が延びる。休館期間以外の開館時間と閉館時間は、平日、土日ともに通常通り。

定期演奏会

日ごろの成果を発表

筑波大学混声合唱団の第34回定期演奏会が12月20日、ノバホールで開催される。午後6時開場、午後6時半開演。

第1ステージと第2ステージは学生が指揮・演奏。第3ステージからは、混声合唱団コーロソフィア指揮者の鈴木茂明氏が指揮する。「飛行機よ！」「わたしの願い」などを披露。

入場料は前売り400円、当日500円。全席自由。

問い合わせ＝090・1203・4255（宮林）

編集後記

今年度から始めたこのの欄では、毎号編集期間のちょっとした話題を書かせてもらいました。しかし編集期間最終日のクタクタな脳みそで面白い話が浮かぶわけもなく、四苦八苦。どっても鍛えられました（笑）。

1面下段の「筑波おろし」では迷った末、この1年間の自分について書きました。いろいろと思うこともあり、予想通り執筆は難航…。顧問の荻野先生にずいぶん助けて頂きました。また毎号紙面の間違いを探しをして頂いた、和田さんを始め広報室の方にも感謝。

次号からは新編集長のもと新たな紙面が発行されます。お楽しみに！（編集長＝松本典子・人文3年）

次号は **2月1日(月)** 発行予定です

大学会館書籍部ベストセラー

1	思考の整理学	外山滋比古/筑摩書房
2	新釈 走れメロス	森見登美彦/祥伝社
3	最新最強のSPIクリア問題集	成美堂
4	ノルウェイの森（上）	村上春樹/講談社
5	新版 大学生のためのレポート・論文術	講談社
6	ヴィヨンの妻	太宰治/新潮社
7	就職四季報2011年	東洋経済新報社
8	SOSの猿	伊坂幸太郎/中央公論新社
9	終末のフール	伊坂幸太郎/集英社
10	算法少女	遠藤寛子/筑摩書房

今月の1位は先月に引き続き、外山滋比古の「思考の整理学」。

2位は森見登美彦の「新釈 走れメロス」。「山月記」、「藪の中」、「走れメロス」、「桜の森の満開の下」、「百物語」の5編を題材に、京都の大学を舞台にしている。表題作の「走れメロス」は、主人公の在籍している部の部室が「図書館警察」に奪われることから始まるドタバタ劇。

今月27日まで歴史裂話会15％オフフェア。

催事

講演会

◆筑波大学ブロックフレーテ同好会定期演奏会

来年2月6日につくば文化会館アルスホールで。午後1時半開場、午後2時開演。「少年時代」、などを演奏予定。入場無料。

展覧会

◆DC展

1月7―11日につくば美術館で開催される。開館時間は午前9時半から午後5時まで（最終日は午後4時閉館）。DC展は博士課程で芸術学を専攻する洋画・日本画・彫塑・書を学ぶ学生15人による作品展。入場無料。

筑波大学出版会

好評発売中！

教育委員会制度再生の条件

―運用実態の実証的分析に基づいて

堀和郎・柳林信彦　共著

戦後設立された教育委員会制度は論議の渦中にある。民主党政権の公約にも教育委員会の抜本的な見直しが含まれている。果たして「教育の地方自治機構」の中心的な担い手として再活性化の道をどうたどれば良いのか。この議論をするための論拠となる実証的なデータが不可欠である。そのニーズに応えて、豊富な統計資料と地道なインタビューから、臨場感をもって教育委員会の運用実態が浮かび上がってくる。教育関連の新聞・雑誌で続々と高評価。筆頭著者は、本学名誉教授。税込4095円。

◇シメ◇

撮影地＝つくば植物園

筑波自然図鑑

黒いロヒゲ模様とずんぐりした体つきが印象的な鳥で、冬に北方から渡って来る。今の時期は構内の林で種子をついばんだり、単独で枝に止まっていたりするのが見かけられる。春に近づくとちばしが鉛色に変わり、北へ帰る前触れとなる。以前紹介したアトリと同じ仲間で、植物食で冬に飛来することなど共通している。もの寂しい冬の林にこの鳥の鳴き声が響くと、生き物の存在をかすかに感じられてついうれしくなる。（写真・文＝武田浩平、生物3年、野生動物研究会）